

雑。わたすペ通信

#1 2024.10号

本格OPEN できました! (祝)

こんにちは! "cafe & HASHIBA わたすペ" 店主のウヰノマリホです。本格的に冷えることになり、徐々に冬の訪れを感じますね。でも、東京に居たときと違って 夏→冬の間の「秋恋」が全然感じられなからたんですが、青森に帰ってきてから、ちよび良い「涼しい」感じも受けて、秋の良さをイ体感しています。



10.20 (祝) OPENしました!!

いやー、今日はとにかくこのOPENが「できた」という喜びでいっぱいですわ...! 困難だらけの申請諸般を乗り越えて、ようやく場を正式にひらくことができました。ここまで応援してくださった皆さま、



本当にありがとうございます。ちなみに、「オープン」って何なんだ??? と思いはがら2回した日でした。つまり、場所自入本はす」と最初のほうから「ちよこちよこイガ」でひらいていたの... (笑) でも、やっぱり飲食を楽しまるようになったというのにはかなり大きいですね。たよにり皆さまカレーを楽しましにしてくださって、OPENしてから、近所のお母さんたちにもお越ししたたいて、

それが何よりうれしいかもしれないです。カレーも、若い人でもご年配の方でも食べやすい味・辛さを目指したので、「美味しい!」と皆さまに言ってもらえて一気に安かったです。ちなみに月替わりの方は、10月は営業日が少ないので11月も引き続き「半羽元の焚やかスパイシーカレー」を提供します。これは、半羽元をほぼほぼにばるまで煮込みつつ、カルダモンセブラックパウダーのホーレスパイを3分たんに使うことで、「焚やかスパイシー」のスキツとした感じを出しました。私の好きな味を最初に本したいと思いい、これに決めました。お返し上がりになつた方はぜひ感想ください。



よく、「どうしてこの場所をつくらたの?」と聞かれます。綺麗にたよると、階上は住まわりたいけど、この町を出たいと思つていことと、よとあるストーリーになってしまつたのですが、もちろんそれも本音のひとつではあるのですが、どちつかといつと「苦み」も消ましている、たよ自然とこの道をい入らなつた、ということもありません。「好き」を追求するミミヤ見つけようこと、この苦みでした。大人になつてつれて、その「好き」は、自分よりそれが得意な誰かを勝手に比べて勝手に落ち込んで、どんどん自分の中から消えていってたんです。なので、自分がどつどの「好き」も探すのははななく、嫌いなモノ、コトに目を向けようこと、自分がどつどつすまされていってた感覚があります。今この場づくりもその文脈もあまなと、後から思いました。私は、「どつどつあまなと繋がる」とか、「どつどつあまなが新しい場に行つ

人見知り、だからこそ
向こうから来てくれる
場をつくらた。

こめ、しめたいなことがあまなり得意恋心ではなことで、自分の中の疲弊が積もっていくような感覚があった。よく知らない、合われない人に頑張つて台合わせに行くよりも、場や空間を自分の好みにつくりあげれば自ずと近いような、合り人が寄つてきこくれまないやないかと思ひました。自分の不得意に目を向けると、そのも、空外二の先の方向性で納得感のあま道にばるかもしよませよ。

『あつたあつたの頃』を

知らない私たちが

とある歳上の友人に言われた一言が「おもしろかった。私たちの世代は色々あった遊び場やよく行っていた場所を懐かしかったり、それに思いを馳せると今に失望したりするんだけど、マリホちゃんはずもずも無い」からつくづくという考え方になる世代なんだね」と



言われてみると、本当に生まれた時から大にキラキラした遊びはしてはいないと思う。何か魯莽的なモノがあったかと言わると、正直ゼンと来ない。私たちの世代(20代後半)でもそうなのに、今のもっと若い世代はどうなんだろ。何かもが厳しくなり、それがあたりまえになってしまおうと考えると、ルールに縛られて、従ってほ方が「楽だ」と感じてしまうのではないかと。まあそれは100%を渡されたときに、一筆目をどう描けばいいのか分からないように大人であふれちゃう世の中にならぬのではないだろうか。世代批判もそのときにするのではなく、そうさせた「社会」という、もっと大きな存在が、その世代の背後にあるんだ。それはとても大きく、複雑で、決して単純なものではない。だからこそ、前向きなテカリ口が必要だと思った。そのとつともなく大きく、複雑な存在への対処は、上意の光であり、長く長く年月をかけて、時には気がついてはいくどいグランドーションに、愛をこめていくものなのかなと思う。だから、マウスでネがテウな局面において、「1」と「0」では何十年後の世界は全くちがう景色になっていってしまうかと、信じてくばす。どうせ何も無いなら自由なんだから、遊び倒せば良い。それが「前向きで明るい雰囲気をつくると」だと思います。その余白を次世代につくらせてあげられるように大人にしたい!!

編集後記



今月号はオーガンが重なり、毎週のようにイベントがあったり、爆速に駆けぬけた月でした。正直、半日であんまり書く暇がない中で書きた上げたので、文体が変なところがあるかと思っております。許してください(笑)。いや、ここまですりになったことが本当に感慨深いですね。お料理するのは昔から好きで、今も全然料理をしないことすけび、店を「マミー」と決めたらここまですりになった自分でも本当に感激しています。そして、管入んに「素晴らしい」と言ってもらえて、このまでの失敗の数が浄化されて感覚が戻りました。実は今月、誕生日を迎えて28歳になります。たまたま二年前のメモを見返すと、福島県葛尾村に住んでいた部屋で書いた、当初のわたスへのモチベーションが出てきました。なんでここまですり来たのかと聞くと、やっぱり何より自分自身が楽しんでいると、いつか思ってしまう。でも、決して順風満帆に歩んできた話ではなく、多くの失敗や回り道をしてきました。それが私の、ハイスだなと思っていました。これから訪れた人の内側に、小さな熱狂がほまれ場所を目指して自分も熱を絶やさないように運営していきます。

今月の一冊



まよまよらない100世末を生きる せし井 裕樹

言葉が降り積もるとすれば、あなただ、どんな言葉が降り積もった社会を次の世代に引き継ぎたいですか？

SNSがますます生きているように、かかせない存在になり、日々重層的な言葉や憎悪表現が拡散するようになった。そこに果敢とて「言葉」ともなっているのだろうか。本書は、短い言葉では説明しきれない言葉の力について問う内容となっている。言葉に宿った魂や「尊さ」は切り抜いたり要約したりすることで殺されてしまう。回りに比べて、リ考え込んで死んだりする言葉こそが、「ラシ」が在りるものだと感じます。まあ、私自身が言葉を上昇へ伝へられない必死を抱えていたのが、本書がとてモットでしたのです。尊く優しの中に、パンフレットは著者の考えが、大いりあっていて、最高の一冊なので、ぜひ手に取っていただきたいです。わたスに聖いがあります!